

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17  
NPO 法人泉の会内 Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884  
静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚  
編集委員  
藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

# Our Life 156号

* 内 容 *	➢ 2024 年度赤い羽根助成事業が完了し「報告書」提出…………… P.1
	➢ 2024 年度最後の研修会開催…………… P.2
	➢ 「2025 年度活動計画」を検討/「30周年記念誌」の発行に向けて……………P.3
	➢ 「2025 年度第 1 回公開型研修会（全体会）」開催案内/「事務局日誌拝見」「編集後記」…P.4



## 2024年度「赤い羽根」地域福祉活動（広域団体）助成事業が完了 「事業報告研修会」を開催し、事業報告書提出

本会は、「2024年度赤い羽根共同募金助成事業」により、「若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組み、このたび全ての事業を終了した。

### (1)「共創社会実現研究会」開催（全8回）

助成事業を円滑に取り組むための協議（この10年間のかるたの活用状況調査に関すること、増刷かるた配布提供先の検討・決定、かるた活用状況の検証、かるた活用事例集企画・編集協議等）及び、今日的な地域課題に関する議論を本会会員、協働団体焼津福祉文化共創研究会、地域実践者、地域活動に関心のある市民等により開催した。

### (2)「若者発 ご近所福祉かるた活用状況調査」の実施

5月➡これまで10年間に寄せられた「かるた活用レポート」（活用報告）の整理作業、平成27年度・令和3年度に「かるた」を提供した団体・グループ等に対して、かるた活用状況調査実施に関する協議  
6月➡かるた活用状況調査実施 ➡かるた活用状況調査回収・考察 ➡調査実施報告書作成とかるた活用事例集に原稿編集移行

### (3)「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷(100セット)・配布先協議・配布提供

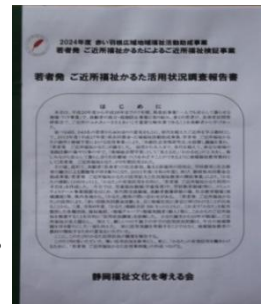
4月➡印刷業者と協議（一部校正作業あり）  
「共創社会実現研究会」を開催し、配布提供先を協議し、事業の具体化を図る。  
5月➡印刷業者との協議、発注、配布提供先確認  
6月➡ かるた納品  
9月➡かるた・事例集をセットにして「レターパック」で発送作業実施（52箇所）

### (4)「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成

5月➡企画書立案 8月➡編集協議（漫画家・法月様）・原稿整理・編集（イラスト挿入）  
9月➡印刷発注・納品(200部)、かるた・事例集セットで配布提供作業

### (5)「赤い羽根助成事業」に関する県民への公表（啓発研修等）

- ・5/25 2/22 「公開型研修会」、11/30「静岡県福祉文化研究セミナー」開催
- ・「各民生委員児童委員協議会研修会」「静岡県コミュニティカレッジ」「県身体障害者福祉会中部地区研修会」等幅広く啓発研修を実施。



\*これまで10年間、赤い羽根助成事業により制作した「若者発ご近所福祉かるた」は、県内各領域に計画的に配布提供してきた。今回の事業により、長引くコロナ禍によりコミュニティ意識の希薄化等地域の現状を把握することが出来た。

「かるた活用状況調査」の実施により、改めて、各方面に「ご近所福祉」の必要性を問題提起することが出来た。そして、「若者発ご近所福祉かるた」の有効活用を再認識する機会となった。

\*平成27年度「若者発ご近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業」、令和3年度「若者発ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育の開拓事業」そして、三度、今年度の「若者発 ご近所福祉かるた」によるご近所福祉検証事業の持続的・啓発的取り組みにより「かるた増刷（合計300セット）」「かるた利用の手引きの作成」とこのたびの「かるた活用事例集」の作成により、コロナ明けの共助の再構築に向けて、小地域における「地域福祉教育教材」として「見える化」「わかる化」のご近所福祉の推進に活用領域を広げる努力をしていきたい。

●「若者発 ご近所福祉かるた」若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」配布提供先からの反響  
 これまでに、本会に寄せられた配布提供先から届いた意見等の一部抜粋して紹介する。

領域	配布提供後の動き
実践者	・かるたが10年間にわたり、ご近所福祉を学ぶ地域福祉教材として活用されていることを知り、改めて、今の社会状況を思うと、市民の意識改革を求めて、身近な地域で、世代を超えた学び合いとして活用していくよう努力をする。
学校（中学校）	・学校内で、どのような有効活用ができるか、教員間で検討をしていく。 ・コミュニティスクール事業も有効活用できるか、今後、地域関係者と協議検討する。
学校（小学校）	・4年担当しているので、地域との繋がりを大切に学習内容として活用を検討していく。
障害者団体	・なかなか、ご近所との交流も消極的になっているので、研修の機会をつくり有効活用をしていきたい。地域の方々や、学校教育でも活用を共有したい。
学童保育	・現場の指導員が、児童とともに有効活用できるように協議をしていく。
居場所・サロン	・早速、会員に呼びかけて活用した。活用事例集を事前に目を通しながら、ご近所を学ぶことを意識して、時々、会員同士で、意見を交わしながら、楽しく、笑いもあり、久しぶりに、和やかな環境の中でひと時を過ごせた。
コミュニティ	・これまでの活動の中で、かるたを使用したことがないので、活用事例集に目を通しながら、自分たちのご近所を振り返ったり、思いを語れるように工夫していきたい。かるたを定期的に活用できるように、保管場所を明確にしておきたい。世代間交流行事の中で活用できるように、関係方面に働きかけたい。
社会福祉協議会	・これまで、コロナのために、地域福祉推進が思うようにできず今日に至っている。サロンや居場所ボランティアに、活用事例集に目を通してもらい、参加者同士が、身近な地域のことが語られる環境づくりに努めていく。
福祉施設	・法人内に、市から委託を受けている「地域包括支援センター」があるので、これからの地域づくりに、かるたを有効活用できるように担当職員間で検討していく。
居場所・サロン	・開所日に、その都度、会員が知恵を出し合いながら、当日の運営に努力しているが、このたびのかるた活用事例集を参考にしながら、楽しい環境づくりに努力していく。
居場所・サロン	・役員会において、高齢者から学んだ若者の意見をもとにかるたが誕生した経緯や、かるた取りで競争心をあおるような活用ではなく、自由に意見を言い合えることや、高齢者の積極的な地域参加を意識できるように工夫した活用を今後心掛けたい。
さわやかクラブ	・会員は、あまり堅い話や活動には消極的であるので、活用事例集を役員がまず目を通して、ご近所について、会員も努力していることを認識していく機会としていきたい。
社会福祉協議会	・全地区対象にした、かるたの活用には限界を感じるが、居場所やサロンを立ち上げたい各地区単位での協議の場に活用し、地域福祉教育の教材として、有効活用をしていきたい。 ・かるたの貸し出しや、近隣市町との連携も検討したい。

「若者発 ご近所福祉かるた」によるご近所福祉検証」

身近な生活圏で「ご近所福祉」を大いに語る居場所 私のご近所のこれからの描くをテーマに、2024年度最後の研修会を開催した

静岡県に、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生して10年。今年度までに、県内各地に300セット配布提供し「ご近所福祉」を「見える化」「見せる化」「わかる化」する学び合いに活用してきた。

今年度作成した「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに、改めて、私にとっての「ご近所福祉ってなに？」を大いに語り合う「第2回公開型研修会」を令和7年2月22日（土）静岡市清水区追分「寄ってっ亭」で開催した。当日は、作成した「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに「基調報告：若者発 ご近所福祉かるた10年を検証」を報告し、参加者の自己紹介を交えながら「円卓トーク：大いに語ろう 私のご近所のこれからの描く」をテーマに、参加者は、思い思いに、短冊に、身近なご近所を綴ったり、望む「ご近所像」を書き出し紹介し合った。語れる環境でアイデア出しをした。



## 「静岡発 福祉文化の創造 29年」を検証し、「2025年度活動計画」を検討

いよいよ、2025年度、本会の活動は、30年を迎える。

今こそ、「福祉文化の推進」が求められる時期であることを認識し、2020年(令和2年)以降今日まで、「ご近所福祉検証期」として活動を展開してきた。

改めて、本会の活動の原点を確認すると、「日本福祉文化学会」から、静岡県内で「第11回福祉文化現場セミナー」開催の要請を受け、阪神淡路大震災発生から1年後(1996年3月)、「静岡発・みんなで語ろう福祉文化を21世紀の礎に」をもとに「人間らしい豊かさをめざして、いま文化としての福祉を語る」を研修テーマに掲げ、全国各地から400名余の参加者と熱く語り合った思いを形にして、「災害と福祉文化」を追求する「静岡発福祉文化の創造」に取り組む「市民活動団体」として、1996年9月に結成して29年間の活動が間もなく終了する見通しがついた。

「静岡発(地方発)福祉文化の創造」を理念として、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合型学習による理論と実践」「課題解決に向けた、福祉文化のプロセス重視」の「3つの活動基調」を掲げて、活動に取り組んできた。

今年度(2024年度)は、2015年度(平成27年度)活動テーマ:「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」を掲げ、「ご近所福祉検証期」として、「ご近所の支えあい」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する活動として、「若者発 ご近所福祉かるた(赤い羽根助成事業)」の誕生につなげたプロセスと、2021年度(令和3年度)作成した「かるた増刷」と「かるた利用の手引き」(赤い羽根助成事業)の取り込み、そして、今年度、更に「かるた増刷」と「若者発 ご近所福祉かるたの活用状況調査」を実施し、(協働団体:「焼津福祉文化共創研究会」)これらをつなぎながら「ご近所福祉」こそ福祉文化を検証した。

活動30年を迎える来年度(2025年度)は、県内各地に、確実に「静岡発(地方発)福祉文化の創造」を発信してきたかを検証する活動に取り組みたい。



\*有志40名により、「第11回学会現場セミナー」実現に向けた協議を積み重ねた



\*「阪神淡路大震災の体験をとおして、21世紀の福祉文化を拓く」一番ヶ瀬初代会長の基調講演



\*「災害と福祉文化」議論が深まった現場セミナー

## 本会30年をいかに描くか「30周年記念誌」作成に向けて

「静岡福祉文化を考える会」は、結成以来、その節目ごとに、「記念誌」を発行し、常に、地域社会に「静岡発(地域発)福祉文化の創造」を発信してきた。

- 10周年記念誌(H19.10.20発行)タイトル「静岡発 福祉文化の実践と推進 結成10年を振り返って」本会結成準備から結成後、福祉文化実践活動に熱い思いを寄せてこられた家本豊氏が、1年半かけて「調査」「機関誌(OUR LIFE)」「新聞掲載記事」等の資料、会員からの声を精力的にまとめて完成した。
- 20周年記念誌(H28.3.31発行)タイトル「静岡発 福祉文化の創造20年 これまでとこれから」10周年記念誌をもとに、「静岡福祉文化を考える会20年の歩み(年表)」を作成した。特に、平成20年度から平成26年度まで7年間取り組んだ「静岡県委託事業:一人でも安心して暮らせる地域づくり事業(高齢者等の孤立防止事業)」から、尊い地域づくりのあり方を「調査」「実践検証」「地域総合型研修検証」に区分しながら考察した。
- 25周年記念誌(R3.2.14発行)は、特に、「記念誌」としての発行はなく、令和2年度(2020年度)調査研究事業「つながるご近所の再構築 決め手は一体何か ご近所福祉その意識と実態検証報告書」の中で、本会活動の主要活動である「調査研究活動」と関連づけて、「25年の歩みと調査研究活動の意義」を章立てし、その中で、「25年の歩み(年表)」を掲載した。

ここに、30年の節目を「静岡発 福祉文化の創造軌跡30年 一草創期からご近所福祉検証期を迎える-」(仮称)と題して、これまでの各節目の記念誌を更に考察し、本会誕生の原点、そして、永遠の課題「福祉文化とは何か」を問い質していきたい。全体を8章の構成でまとめていく予定。

## 令和7年度 静岡福祉文化を考える会 第1回公開型研修会開催案内

本会は、29年間「静岡発 福祉文化の創造」を発信しながら、みんなで創る「ご近所福祉」を語り合ってきた。そして、静岡県に、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生して10年が経過した。

県内各地で、「ご近所福祉」を「見える化」「見せる化」「わかる化」する学び合いに活用してきた「若者発 ご近所福祉かるた」と、2024年度作成した「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに、本会の今年度の活動テーマ「静岡発 福祉文化の創造30年の軌跡を検証する」をもとに、昨年度に引き続き「私にとって、ご近所福祉ってなに？」を更に深めて語り合う目的で開催。(定員20名 参加費無料)

■ 開催日時 令和7年 5月24日(土) 13:30~15:30

■ 開催会場 静岡市清水区追分3-5-17 NPO法人泉の会内「寄ってっ亭」(Tel054-367-2878)

### ■ プログラム

13:30 開会 \*開会挨拶 \*オリエンテーション

13:50 基調報告「これまでの29年間の調査研究活動から、福祉文化を検証する」

14:30 休憩

14:40 ワークショップ「私のご近所を創る提言 -これからのご近所づくりを大いに語ろう-

15:30 閉会

■ 問い合わせ・申し込み 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚 TEL&FAX 054-624-1924

## ■ 事務局日誌拝見(10/16~3/1 今後の予定)

10/16	「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」作成に関する取材対応(静岡市内)
11/30	「第222回委員会」「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」開催
12/04	西伊豆町仁科地区中区の「ご近所福祉ネットワーク」に参加(～12/05)
12/14	第8回共創社会実現研究会開催
12/16	「OUR LIFE155号」発行・配布、メール送信実施
12/20	会員宛各種資料送付(第2回公開型研修会周知チラシ送付)
12/25	11/30研究セミナー参加者に資料発送 「若者発ご近所福祉かるた」の活用状況把握
12/30	今後の会の運営に関する協議(会計状況確認)
01/03	第2回公開型研修会(2/22開催)レジメ作成作業「30年誌」執筆作業継続
01/10	今後の会の運営に関する協議(30年誌の編集状況)
01/12	「若者発ご近所福祉かるた」の活用状況把握 ゆうちょう銀行からのアンケート作成
01/16	第2回公開型研修会(2/22開催)に関するマスコミ各社に情報提供
01/20	第2回公開型研修会(2/22開催)に関する関係方面への情報提供(40名)
01/22	関係方面に、本会活動状況説明 「若者発ご近所福祉かるた」の活用状況把握
02/02	第2回公開型研修会(2/22開催)に関する準備作業(看板等)「30年誌」執筆作業継続
02/22	「第223回委員会」「第2回公開型研修会」開催 「30年誌」執筆作業継続
03/01	「OUR LIFE156号」発行・配布、メール送信実施 ..... 今後の予定 .....
03/10	「令和6年度赤い羽根助成事業実施報告書」提出
03/12	会員宛関係資料(「OUR LIFE156号」「2025年度全体会開催案内」)発送
03/29	「第224回委員会」開催(2024年度事業報告、2025年度活動計画、記念誌等)

## ●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、関係団体との協働で、身近な福祉問題を活動テーマに、29年の福祉文化実践活動に取り組んできた。特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」基に、活動を具体化している。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」。

更に、「調査研究活動」「実践活動の検証」「啓発学習」の3つの具体的な柱立てにより活動に取り組んでいる。◆ブログで広く本会活動を発信中。

◆関心のある方は、下記に問い合わせを。

■会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

■問い合わせ・連絡先：424-0841 静岡市清水区追分3-5-17

NPO法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

県民からの尊い「赤い羽根共同募金助成事業」により、協働団体：焼津福祉文化共創研究会、多くの県内の活動実践者、関係団体等の支援で「2024年度活動」は、ここに無事29年の活動を終了する見通しがついた。果たして「静岡発(地域発)福祉文化の創造」を県内各地に発信できているかである。2025年度の活動で検証していきたい。



焼津福祉文化共創研究会QRコード



静岡福祉文化を考える会QRコード